仮面ライダーフィアス

rubixcube

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
仮面ライダーフィアス

【Ｎコード】
Ｎ９３８８Ｋ

【作者名】
ｒｕｂｉｘｃｕｂｅ

【あらすじ】
神の中にも罪を犯す者がいる。それは“罪神”と呼ばれ、死刑判決を言い渡される。それを執行する死神がいた。現世に降り立ち、執行人の衣と仮面を被り、鎌を振るう。「絶対、ぜーったい信じないからね！」ｒｕｂｉｘｃｕｂｅのライダー小説第１０弾！

（前書き）

オリジナルライダー短編小説、第４弾。今回は死神がモチーフです。変身者はなんと、『死んでから』変身します。短いですが、最後まで読んで頂けると嬉しいです。また、今日投稿しました、同短編小説「仮面ライダーコマンド」もよろしくお願いします。

「えぇぇぇぇ！？」
私は目の前の光景が信じられない。恐ろしい、動けない。目の前には胸の辺りをザックリと斬られた男性。そして、それを見下ろす異形。髑髏の仮面をつけて、体はカラフルだった。人型をしているけど、人じゃない。そして、大きな短剣を持っている。不思議とその短剣には血が付いていない。一滴たりとも…。
「見たな？…見たものは殺す。」
「信じない！ゼ～ッタイ信じないから！」
こんな時に口走ってしまったいつもの口癖。だけど声が震えている。再び異形が短剣を構えて此方に歩み寄ってくる。だめ、殺されちゃう！誰か助けて！！
「そこの怪物！俺が相手だ！」
突然現れたのは、一人の男の人だった。“ウオォォォォ！”と叫んで異形に突っ込んでいく。一見無謀に見えたけど、どんどん押されて行く異形。すごい、あの人すごい。正義の味方みたい！
「君、大丈夫かな？」
振り向くと、さっきの男の人より若い、と言うか少年が立っていた。手を差し伸べている。
「さぁ、ここから立ち去った方がいいよ。」
伸ばされた手を掴んで起き上がる。
「き、君、あの人の仲間？」
「まぁ、持ちつ持たれつの関係だけどね。君は逃げて、これは彼の仕事だから。」
指を指す方向。そこには形成を逆転されて、喉を締め上げられる青年の姿が。弱っ！？
「この野郎！罪神（クライム・ゴッド）の癖に！」
「私を知っているのか。罪深い人間め、死んでもらおう。」

あの短剣を取り出し、首を掴んだままの青年に突き刺した！？声を出す事も許されず、青年は一瞬で息絶えてしまった。
「いやぁぁぁっぁぁっ！」
「落ち着いて。問題ないから！」
「あの人死んじゃったんだよ！？胸、こうやってグサッって刺されて…。信じない！絶対信じない！」
気が付けば、あの異形、青年が“罪神（クライム・ゴッド）”と呼んでいたものが私たちに向って来ている。駄目だ、今度こそ殺されちゃう…。
「来た…」
少年が呟いた。来たって、何が！あの怪物ならずっとここにいるって！パニくる私と、何故か異形の後ろを見る少年。視線の先はだんだん下がっていき、最終的には青年の遺体に注がれた。
「見てはいけない物を見た、自分を恨むんだな。」
短剣を振り上げた瞬間だった。無機質な男の声が響き渡る。
「罪神か。」
異形が声の方向を振り返った。私もその方向を見たけど、驚いてしまった。だって、殺されたはずのあの青年が立っているんだから。だけど、どこか違う。さっきの性格とは打って変わって、冷静で冷たい声。目も心なしか睨んだ様な感じ。何より、体の回りに黒いオーラを纏っている感じがした。しかも、傷が塞がってる！？
「何故だ？」
問いかける異形。青年は何も言わなかった。その代わりに、首にかけていたらしいメダルを外す。
「そのメダル！お前、統率者の手先か！？」
「禁忌を犯した罪神へ引導を渡さん。…変神」
次の瞬間、青年を黒いオーラが纏った。私は少年に引っ張られて、現実に引き戻された。
「ここから離れるよ。ここまで見られたんだ、君にも少し説明してあげる。」
建物の影に隠れると、少年は話し始めた。

「僕の名前は佐原鈴斗（さはら すずと）。さっきの彼は熱海友也（あたみ ともや）。そして、あれは罪神（クライム・ゴッド）と呼ばれる罪を犯した神だよ。」
「あ、あれ、神様なの！？」
「そう。人間の魂を奪い去る、禁忌を犯した罪を背負った神だけどね。彼らは死神界の統率者から死刑を既に言い渡されている。即ち、指名手配されているんだ。それを見つけ、死刑執行をするのが彼の仕事。」
　覗くように言われ、顔を出す。そこには罪神と、青年ではない姿がいた。黒いスーツに黒いマント。白い線が体中をランダムに走っている。そして、顔。いや、仮面と言った方がいいかも知れないそれには、目がなかった。そして手には大きな鎌を持っている。それが罪神相手に戦っているのだ。短剣をはじいてパンチやキックを入れる。時には鎌でバッサリと斬る。
「詳しく言えば、今の友也には、さっき言った統率者の手下。神の死刑執行を行う者がとり憑いている。肉体を得る為にね。だけど友也自身の魂が邪魔だから、彼が死んでからいつもやってくるんだ。友也は死神に選ばれた人間、と言っても過言じゃないよ。」
　私は混乱してきた。想像上の神とかが現実にいる？しかも人間を襲う？死神に選ばれた人間？わ、訳わからない。だけど一番気になる事が一つ。
「どうして君はそんな事を知ってるの？」
「僕も死神に選ばれた人間だから。少し友也とは違うけど、僕には死神の姿を見る事ができる。」
　なるほど。確かに、私には見えない何かを見ていたような…。
「さて、そろそろ終わりかな。君も神の最後を見てみると良い。」
　再び覗くと、完全に押されてる罪神が、駄目だしとばかりに蹴られてる姿だった。鎌を構える死神。空中に浮かんだ。何処からか、二本目の鎌を取り出す。一本目より小さい鎌の反対側、鉄球が付いている部分を罪神に投げつける。それは意思を持っているかのように、罪神をきつく縛り上げた。罪神がいくら足掻こうとも逃げられ

ない。それを哀れむかの様に数秒間見つめると、最初の大鎌を取り出して、一直線に飛び掛った。
横に一閃された罪神。斬られた場所から少しずつ粒子となって消えていく。もとの罪神と同じ様なカラフルな色だった。綺麗…。不本意ながらもそう思った。
「やぁ、フィアス。今日もお疲れ様。」
鈴斗君が、友達に話しかけるかの様に近付いていく。フィアス、それが名前なのだろうか？
「コレが仕事だからな。」
その言葉を残して、フィアスは崩れた。いや、フィアスが抜けたから、青年が崩れ落ちたの？さっきまでの黒いスーツが消えると、青年が寝転んでいた。すぐに、目をパチクリさせて起き上がる。
「なるほど。やはり俺が寝ている間に倒したらしいな。ん？お嬢さん、大丈夫でしたか？」
い、生き返った！？
「信じない！ぜ～ったい信じないからね！」

（後書き）

裏設定など

・死神が見える少年、佐原鈴斗は、既に故人、友也のサポートをすることで死神から命を与えられている。生き延びる理由は、何かしら遺り残した事があるため。

・熱海友也が生き返ったのは、罪神を倒したことで、一番最後に奪われた命を取り戻しているから。つまり、罪神を倒すことは熱海を生き返らせる事でもある。因みに、友也はフィアスのことをしらない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9388k/

仮面ライダーフィアス

2010年10月8日15時12分発行